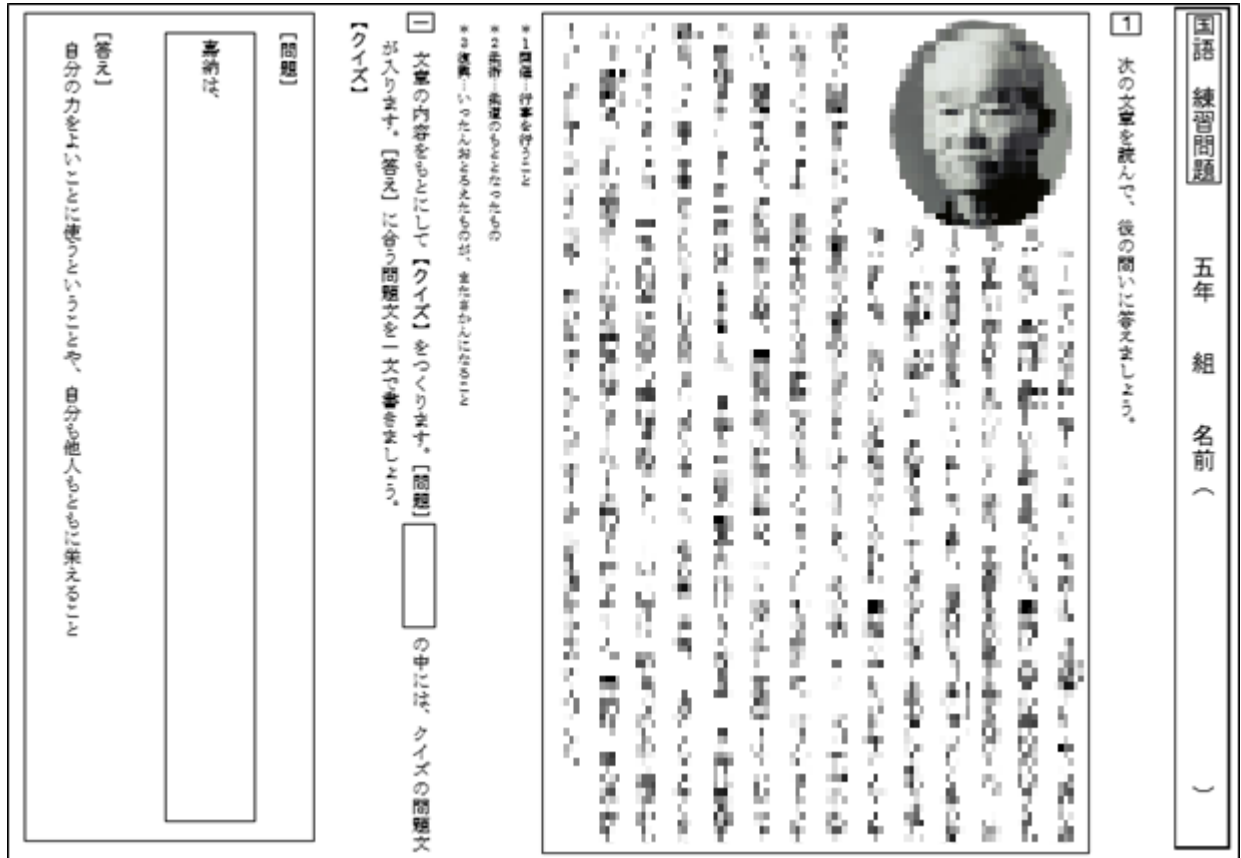


4-3 実践事例及び考察

実践事例3 授業の考察

(1) 評価テストとその結果

単元終了後に、評価テストを実施しました。その結果を基に、授業の考察を行います。
 評価テストでは、「書かれている内容を正確に捉え、求められた様式にまとめること」を出題の趣旨として設定しました。



【実際の評価テスト】

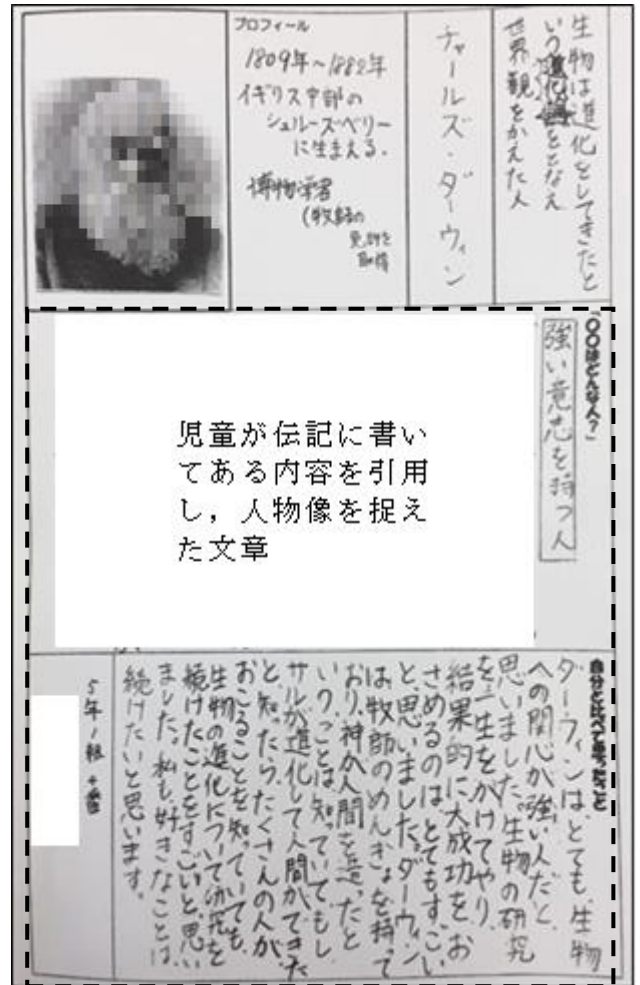
解答類型		正答	反応率(%)
(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ①「～でしょう。～でしたか。」のように質問形式の表現になっていること ②「信念」という言葉を使っていること			
1	条件①、②を満たしているもの	◎	32.4
2	条件①は満たしているが、条件②を満たしていないもの		38.2
3	条件②は満たしているが、条件①を満たしていないもの		0.0
9	上記以外の解答		23.5
0	無解答		5.9

【評価テストの解答類型】

【評価テストの解答類型】から分かるように、正答率は32.4%と低い傾向になりました。条件①、②を満たすことができていない解答が23.5%、無解答が5.9%となりました。この結果から、内容の難しい初見の文章のキーワードを、設問から判断することが困難であったことが分かりました。必要とされるキーワードは何かを理解し、分析的に文章を読む力に課題が見られました。しかし、質問の様式にまとめることができたのは解答類型の1、2を合わせて70.6%でした。求められた様式に合わせてまとめた児童は多く、表現力の高まりを見ることができました。

(2) 単元を通して位置付けた言語活動から見えること

本授業実践においては、単元の学習課題を「伝記を読んで、伝記に描かれた人物像やそれについての自分の感想を、文章中の出来事や人物の行動、考え方を根拠にして、自分の考える伝記の人物のすごさを人物事典に書く」と設定し、「人物事典カードづくり」を言語活動として位置付けました。【人物事典カード「 部】を見ると、伝記に書かれた内容を読んで、〇〇な人と人物像を自分の考えで書くことができています。その際、人物像を表す語彙を単元を通して習得し生かしています。書かれた内容と人物像とを結び付けながら読むことは、伝記において文章を正確に読むことにつながります。このように、学習課題に対して児童自らが見通しをもって課題を解決していく過程が、学習状況調査から見える課題を解決する力を付けることにつながっていくと思えます。



児童が書いた人物事典カード

(3) 成果と課題

実践校においては、学習状況調査等の結果から、以下のように課題を焦点化し、具体的な手立てを考え、授業実践に取り組みました。

○実践校における課題の焦点化

- 「書かれている内容を正確に捉えること」
- 「求められた様式に合わせてまとめること」



○課題の解決に向けて必要な力

- 「書かれている内容を正確に捉えること」
- 「求められた様式に合わせてまとめること」



○授業改善のポイントを生かした手立て

ア 児童に見通しをもたせ、主体的な学びをつくること

[手立て①] 描かれた人物の行動や考え方、生き方を正確に捉えるために、本文の文章に着目できるようなワークシートを作成する。

[手立て②] 自分の考えを求められた様式に合わせてまとめさせるために、まとめ方モデルを示す。

[手立て③] 人物像を表す語彙を増やすために「言葉のたから箱」を利用する。

イ 単元を通して言語活動を位置付けて授業を行っていくこと

[手立て④] 単元を通じた言語活動として、「伝記を読んで5の1人物事典を作ろう」を仕組み、本教材学習後に自分が選んだ伝記で人物事典カードを書かせる。

ウ 自分の考えを広げたり深めたりさせる話し合いを授業に取り入れること

[手立て⑤] 児童が考えを広めたり深めたりする場として、グループ学びを設定する。

エ 学びを自覚させる振り返りを取り入れること

[手立て⑥] 単元末や授業後に自己評価を行わせ、「学習してわかったこと」や「自分ができるようになったこと」を書かせることで、自分の学びを自覚させるようにする。

【成果】

[手立て①] 教科書の本文が上段にあり、下段に書き込めるスペースが設けられていることで、自分の考えや友達の考えを書きやすくなりました。また、文章全体を見通すことができるので、どの部分から自分の考えの根拠を導いてきたかの意思疎通にも役立っていました。

[手立て②] 単元の導入で、何について読んでまとめるのかを入れ込んだ教師作成のモデル文を提示したことは効果的でした。モデル文を掲示しておくことで、何を読み取るのかを明らかにすることができたようです。

[手立て④] 自分が選んだ人物で人物事典カードを書くことを目標とすることで、まずは、いろいろな伝記の人物の本に触れ合おうとする姿が見られたことが良かった点です。また、同じ本でも書くためには詳しく読み取ろうと繰り返し読み返す姿も見られました。また、読書の幅を広げることにもつながっています。

[手立て⑤] グループ学びの場を設定することで、自分の考えと比べ、同じところや違うところに気が付くことにつながりました。自分の考えに自信がもてずにいる児童も友達の意見を聞くことで、自分の考えに気が付く場面も見られました。小集団で一度自分の考えを必ず発言する場を設けることで、自分の考えを深める活動につながったように思えます。

[手立て⑥] 学習課題に対する自己評価を授業後や単元末に行うことで、この単元を通して付ける力を児童に意識させながら単元を進めることができました。このことにより、主体的に学習に関わる姿勢を育てることにもつながりました。

【課題】

[手立て③] 人物像を表す語彙を掲示したが、参考程度ということにして利用に関しては徹底しませんでした。また、どんな人かを書く場面では、業績では言い表せなかった人物の

魅力やしたことでもまとめてよいとしたため、人柄を表す語彙を用いた児童もいれば、人物の行動でまとめた児童もいることになりました。教師の用意した『言葉の宝箱』のような短い言葉だけでは、様々な伝記の人物の特徴を表すのには不十分な部分があったと思われます。